音楽科

教科領域研究テーマ

【心が動く，心がつながる生きた音楽活動を求めて
— 子どもから大人へ，
楽しく，感動する音楽活動の場の創造 — 】



音楽科

心が動く，心がつながる生きた音楽活動を求めて

― 子どもから大人へ，楽しく，感動する音楽活動の場の創造 ―

実　践　者　来嶋　英生，遠藤　智保
共同研究者　愛媛大学教育学部　石塚　真子，井上　洋一，岸　　啓子
木村　勢津，田邉　　隆，福富　彩子
愛媛大学教育学部附属小学校　石川　貴恵，楠　　俊明

第１章　はじめに

本校音楽科では，音楽を知覚・感受し表現する力の育成を目指し，「感動」という視点から授業を構築しようとしてきた。中学生における「子どもの発達特性から考えた『楽しさ』『感動』」を*１「技能の向上が実感できること」２「音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚くこと」３「自分の思いを音楽で表現することができること」「音楽に感情移入できること」４「音楽の広がりや深さに満足して活動すること」５「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」*と分類した。そして，それらの感動を授業で生徒に味わわせるために，過年次ではLive（目の前の演奏者による生演奏）による音楽活動を大切にしてきた。

昨年次，３年生において音楽の授業で感動した場面を問うアンケートを実施した。Live演奏直後のアンケートではゲストティーチャーとの「出会い」に感動した回答が多かったが，題材終了後のアンケートでは，２「音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚くこと」に分類される回答も増えていた。自己評価等の感想から，演奏からアフタービートの理論などを肌で感じ，音楽の理解によって表現力が向上することを実感したためであると考えられる。他者と自分との違いに気付き，互いに理解し合い，他者の感覚のすり合わせを経て，ともに創り出す喜びの感受を促した結果だと考える。しかし，１時間の授業の中で，教師が期待している感動と，生徒が感動する場面とが異なることが多く，「感動」という視点から学習のねらいを定めることで，ねらいが不明確な場面が多くなった。

学習指導要領解説音楽編の教科の目標において,音楽に対する感性とは*「音楽の学習は,生徒の音や音楽の存在に気付き,それらを主体的に捉えることによって成立する。（中略）音や音楽を知覚し感受する時に,生徒の音楽に対する感性が働く。こうした学習を積み重ねることによって,この音の方が自分にとって心地のよい音だ，この音楽の響きには豊かさが感じられる,といった心の中の意味付けが確かなものになっていく。そして生徒一人一人が音や音楽をそれぞれの感じ方で味わうことにつながっていく。」*と述べられている。音楽に対する感性を育てる過程と，音楽活動において感動を味わわせる過程は似ており，生徒一人一人，感動する場面や内容が異なってくる。そのため，１時間の授業において，みんなが同じ感動を共有することが難しく，長いスパンで生徒の成長を見ることが必要である。学習の積み重ねが知識や技能などが結び付いた時に，さらに意欲が高まり，技能の向上が見られることが，授業における「感動」の要因を分析することで明らかになってきた。

中学校学習指導要領に謳われている音楽の情意面と能力面を同時に育てるために，また音楽における「確かな学力」を育てていくために，〔共通事項〕に留意し，授業実践を行っていきたい。さらに，教師が生徒の音楽性を引き出すために，様々な音楽経験を積ませ，音楽を思考・判断する基準を広げていきたい。それが，本校の研究の重点目標である「多様な価値観の社会で，自分から他に積極的に働きかける表現力・行動力の育成」「豊かな自尊心・自尊感情の醸成」を育成

にもつながると考える。

そこで，次のことを今年次の重点目標とし，研究・実践を行っていく。その見取りを「感動」の要因の分析を中心に行っていく。

(1) 気付きや達成感から起こる感動の場の創造

ア　Liveによる演奏をより多く行い，音楽鑑賞から気付いたり，課題を発見し，解決したりする学習展開を行う。

イ　技能の向上を実感させるために，授業で使う教材と関連させたヴォイストレーニングを継続して行う。

(2) 仲間との関わり〈ハーモニー〉から起こる感動の場の創造

生徒の実態にあった教材を取り上げ，他者と自分との違いに気付き，互いに理解し合い，他者の感覚のすり合わせをしていく中で，基礎の定着を図り授業を創造していく。

音楽の授業や活動で行われる雰囲気や音・音楽を大切にし，教師・仲間・ゲストティーチャーからの賞賛から「音の記憶」を深化させる。そして，授業を振り返ることから，自他の成長を実感させる。

第２章　研究の実際

〔２年生〕「心を合わせて」〔３年生〕「表現力UP　伝えよう思いを」の実践より

１　題材名

〔２年生〕	〔３年生〕
「心を合わせて」〔A表現：歌唱ア，イ〕	「表現力UP！～伝えよう思いを～」〔A表現：歌唱ア，イ，ウ〕
歌唱教材：「語り合おう」「ふるさと」「fight（ファイト）」	歌唱教材：「花」「fight（ファイト）」「アポロンの竪琴」

２　題材目標

〔２年生〕	〔３年生〕
○曲想と諸要素の働きを理解し，表現を工夫する。 ○歌唱における基礎的な技術の定着を図る。	○作詞者･作曲者の思いに共感し，より音楽的な表現を工夫する。 ○歌詞の意味や曲想を感じ，楽曲の構成を意識して自分たちらしい表現を工夫する。

３　題材について

(1) 生徒について

２年生は，明るく元気である。個人を見れば，歌える生徒が多いが，自信がもてなかったり，周囲を気にして声が出せなかったりする生徒も多い。仲間の前で自分を出し，自信をもって歌っていくことが課題である。また，音楽を楽しもうとする姿勢は身に付いているが，深く味わおうとすることが苦手である。３年生はおとなしく，あまり声がでない雰囲気がある。昨年度，混声四部の楽曲に取り組み，クラスで気持ちを合わせ歌うことの楽しさに気付いたことから，次第に響きがまとまってきた。また，声が落ち着いてきており，響きの変化に気付いたり，以前より思うように声が出せるようになったりしたことで，次第に自分を開き，表現することができる生徒が増えてきている。

普段はクラス毎に授業をしているが，２年生と３年生の合同授業をすることで，３年生は自分たちの声の成長に気付き，歌に対する自信が増すことにつながると考えた。２年生は先輩たちからの演奏やアドバイスから，自分たちの演奏の課題に気付き，より響きのある声による合唱にあこがれをもち，声の響きを意識し合唱活動に取り組むことができると考える。そのことで，３年生の自尊感情を高めることが期待できると考え，題材を設定した。

(2) 題材について

２年生はクラス替えをし，新しい環境で人間関係を構築する時期である。新しい仲間と声や心を合わせるために，次の教材を取り上げた。「語り合おう」は，斉唱の部分では声のまとまりを，混声三部のところでは，ハーモニーや掛け合いを感じ，歌うことができる。また，短い楽曲であるため，自分たちでの音取りの仕方を再度，確認することができる。「ふるさと」では，アカペラの楽譜を用い，ハーモニー感を養うことができる。昨年からJ-popを歌いたがっていたため，「fight」を取り上げる。意欲をもち，自主的に活動できるとともに，ハーモニーや声の掛け合い，ハーモニー感を味わって合唱することができる。

３年生では，この題材において，歌詞や楽譜などから，作詞者・作曲者の思いに気付き，より音楽的な表現を工夫することをねらいとしている。そのために，次の教材を選択した。「花」では，詩の情景や心情を現すために，強弱記号や休符などが大きく関係していることを学習することができる。今年のNHK全国学校音楽コンクールの課題曲「fight（ファイト）」は，TV放送などから，作詞者・作曲者の思いを知り，演奏することができる楽曲である。旋律が様々なパートに移るため，声部の役割を意識しハーモニーをつくったり，響きのある声質や歌い方を工夫したりする必要がある。混声合唱とピアノのための組曲「歌が生まれるとき」から「アポロンの竪琴」は，声域が広く，特にテナーのパートは中学生にとって声を出すことが難しい部分がある。しかし，詩がすてきなこと，曲調の変化があること，ハーモニーの調和や緊張，厚みを味わうことができるなど，生徒の知的好奇心を揺さぶることができる楽曲である。また，歌えたときの達成感は大きなものとなり，次への活動へとつながると考える。生徒のモチベーションの高まり，技能の向上が期待でき，歌うことへの自信につながってほしいと考える。

(3) 指導の工夫について

２年生の「語り合おう」では，仲間のよさを発見させるために，音取りを生徒自身に行わせる。生徒が困っていることに対し，教師は支援・指導していく。歌詞から，新クラスでスタートする生徒にとって，友だち同士の関わりを考えさせるとともに，ミュージカルのストーリーを知り，歌詞を味わうことによって，人間としての心の豊かさを感じさせたい。「ふるさと」ではハーモニー感を養うために，アカペラに挑戦させるとともに，日本語を大切にした歌い方を指導する。学級の様子に応じて，アカペラの混声三部合唱か混声四部合唱かを選択させ，無理をしないで歌えるようにする。「fight」においても自主的に音取りができるようにする。また，ハーモニー感を養ったり，Ｊ-popを歌う楽しさと難しさに気付かせたりし，合唱をする。

３年生では「花」において，音楽の得意な生徒を活躍させ，仲間が互いのよさを認め合えることができるように，生徒と教師で模範演奏を行う。日本語を明確に歌ったり，情景を表したりするための休符や強弱記号について理解させるために，いくつかの歌い方を教師が範唱し，聴き手の受け止め方の違いを感じ取らせる。そして，作曲者の工夫や楽曲のよさに気付かせ，歌わせたい。また，日本で歌い継がれている「花」が生徒にも定着してほしいと考え，授業の始めに発声と兼ね，継続的に歌わせる。「fight」では，生徒の自主的な活動によって歌っていくことを重視する。教師は生徒の歌声を聴き，言葉を明確に伝えること，ハーモニー，各パートの役割の意識と声の質の違いによるひきたたせ方など，音楽の諸要素を判断し，演奏していく力をこの楽曲を通して養うために，適宜，教師がアドバイスを行う。また，思いを抱き感情移入して歌うために，誰に「頑張れ」を伝えるのか，対象を具体化させる。その根拠として，伴奏の形や調性に注目させ，歌い方を工夫させたい。「アポロンの竪琴」では，強弱のない楽譜を用い，詩や音楽の特徴をヒントに，どんな気持ちでどんな感じで歌うのか意見を出し合いながら，楽曲の構成をまとめていきたい。

評価については，パート別の練習や，全体で合わせるときの様子を観察し，生徒の変容を見取

る。また，歌のテストから技能の向上を評価していく。さらに自己評価カード（授業における感動の場面）から，生徒の心情の変化や気付きを見取る。

4　題材の評価規準

〔2年生〕

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	○仲間と協力し，ハーモニーを感じたり，歌唱の技能を向上させようとしたりする。	○曲にふさわしい表現を工夫しようとする。 ○声部の役割を生かし，全体の響きに調和させて合唱することができる。	○「姿勢」「呼吸」「共鳴」を意識し，歌おうとする。	○楽曲を特徴づけている諸要素のはたらきを理解して聴くことができる。

〔3年生〕

	ア　音楽への関心・意欲・態度	イ　音楽表現の創意工夫	ウ　音楽表現の技能	エ　鑑賞の能力
題材の評価規準	○仲間と協力し，歌唱の技能を伸ばそうとする。 ○歌詞の内容を味わい，共感し，その思いを表現しようとする。	○歌詞の内容を味わい，言葉が明瞭に伝わるよう歌おうとする。 ○声部の役割を生かし，全体の響きに調和ある合唱にするよう課題を指摘する。	○豊かな響きをもった歌声で明確な発声の仕方で歌おうとする。	○楽曲全体の曲想を感じ取り，楽曲に必要な音楽の要素を意識して聴くことができる。

5　授業の流れ

〔2年生〕

ねらい・学習内容	評価の規準	【評価方法】	共通事項	時間
心をひとつにして「語り合おう」を歌おう。				
○自主的に音取り，合唱をする中で，気持ちがひとつになる楽しさを体感する。	◇仲間と協力し活動する。 ◇正しい音程で歌う。 ◇歌唱の基本を意識し，歌う。	【観察】 【観察】 【観察／実技テスト】	・強弱 ・旋律 ・テクスチュア	1
アカペラで「ふるさと」を歌おう。				
○ハーモニーを感じ，きれいな日本語の発音を意識して歌う。	◇正しい音程で自分のパートを歌うとともに，他の声部の動きやハーモニーを感じ歌おうとする。 ◇歌唱の基本を意識し，歌う。	【観察】 【観察】	・旋律 ・テクスチュア	2
Nコン課題曲「fight」に挑戦！				
○自主的に音取りや合唱をする。 ○先輩の演奏を聴き，自分たちの演奏の課題を見付け，改善していこうとする。 ○自分の声の成長を振り返る。	◇仲間と協力し活動する。 ◇歌唱の基本を意識し，歌う。	【観察】 【観察／実技テスト】	・リズム ・旋律 ・強弱 ・テクスチュア	4
先輩が曲を仕上げて歌う様子を見たり，聴いたりし，自分たちの演奏を振り返ろう。				
○音楽的な表現をしようとする。またそのために技能の習得に意欲的に取り組む。	◇声部の役割と全体の響きの関わりを理解し，表現する。 ◇響きのある声をイメージし技能を習得しようとする。	【観察】 【観察／実技テスト】	・音色	2

〔3年生〕

ねらい・学習内容	具体の表現基準	【評価方法】	共通事項	時間
「花」情景を伝えよう。				
○楽曲を知り，休符や強弱などと情景についての関係を意識し，斉唱・二部合唱をする。	◇歌唱の基本を意識し，歌う。 ◇情景をイメージし，休符や強弱などの意味を理解し歌う。	【観察】 【観察】	• 旋律 • 強弱 • リズム	1
「fight」に込められた思いを歌おう。そして自分たちの思いを込めよう。				
○ハーモニーや言葉のニュアンス，声の響きなどに注意し，自分たちらしい表現の工夫をする。 ○楽曲に込められた思いを知り，思いをもって合唱する。	◇歌唱の基本を意識し，歌う。 ◇楽曲に込められた思いを知り，イメージをもって歌う。 ◇声部の役割を理解し，強弱や声質を意識して歌う。 ◇楽曲の構成を理解し，楽曲の盛り上げ方を工夫する。	【観察／実技テスト】 【観察／ワークシートの分析】 【観察】 【観察】	• 音色 • テクスチュア • 強弱 • 形式 • 音楽を形づくっている要素同士の関連	4
伝えよう，後輩に！私たちの歌声。附属中学校の伝統を！				
○後輩の見本となるよう，声の響きや言葉が明確な合唱にしようとする。 ○楽曲に込められた思い，私たちの思いを伝えようとする。	◇学習した内容を生かし，表現する。 ◇感情移入をし，音楽表現をする。	【観察・ワークシートの分析】	• 音色 • テクスチュア • 形式 • 音楽を形づくっている要素同士の関連	2
混声四部合唱「アポロンの竪琴」に挑戦～楽曲の構成を考えて歌おう。				
○混声四部合唱に取り組み，ハーモニーや楽曲のもつおもしろさに気付く。 ○技能の大切さに気付き，より高い表現をしようとする。	◇厚みのあるハーモニーを感じ，合唱する。 ◇声部の役割を意識し，表現する。 ◇歌詞を味わい思いをもって表現する。 ◇伴奏の違いや盛り上がりを意識し，合唱する。	【観察／実技テスト】 【観察／自己評価カードの分析／実技テスト】 【観察】	• 旋律 • テクスチュア • 音楽を形づくっている要素同士の関連	6

6　研究の実際

(1)　主題

先輩から後輩へ伝えよう。応援歌「fight」　～主旋律を浮き立たせるための工夫をしよう～

(2)　ねらい

〔2年生〕

○　先輩の声を聴き，音楽的な表現をするために必要なことは何かに気付き，合唱しようとする。

〔3年生〕

○　後輩に教える中で，自分たちの声の変化に気付き，さらに響きのある声で合唱しようとする。

○　思いや意図をもって歌い，より音楽的な表現をしようとする。

(3)　展開

学習活動（形態）　・生徒の反応		時間	○指導の工夫 ◇評　　価
〔2年生〕	〔3年生〕		
1　お互いの演奏のよさや課題を見つけよう。　(一斉)		10	○自主的な活動になるように3年生は伴奏と指揮をさせた。
「fight」を歌う。 3年生の演奏を聴く。	2年生の演奏を聴く。 「fight」を歌う		

2　よさや課題を発表しよう。　（一斉）

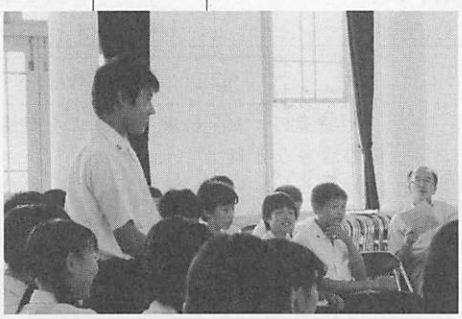
10

◇それぞれの演奏における課題が分かり発表できているか。

【観察】

先輩の演奏を聴いて，感想を発表する。
- 大人っぽい声だ
- 口がよく開いている
- 姿勢がよい
- ハンドクラップがあり，楽しそう
- 強弱がはっきりしていた

後輩の演奏を聴いて，感想を発表する。
- 声に響きがあればよい
- 盛り上がりがない
- 強弱がもっとあればよい
- 言葉がはっきりすればよい
- ハモりきっていない



発表している様子

主旋律を浮き立たせよう！

3　課題を解決しよう。　（小集団）

15

ソプラノ	アルト	男　声
• 鼻濁音を意識して響きをつくろう • 母音と子音をはっきり歌おう • ３年生が歌うのでまねをしよう • もっと口を縦に開けよう • 三角形を広げよう • 腹筋で支えよう • 補助動作を入れて歌ってみよう	• 主旋律の部分をしっかりと歌おう • 語頭の母音は深く • ３年生が歌うのでまねをしよう • 深い声で歌おう • 声を顔の前に響かそう	• どこが主旋律なのだろう • ハーモニーをつくる部分はやさしく歌おう • 声の響きを工夫しよう • 鼻をつまんでみよう



ソプラノパート練習の様子



アルトパート練習の様子

4　一緒に合唱し，活動を振り返る　（全体→個人） • 高い声がでて，気持ちよかった • 大勢で歌うと迫力がある • 声が変わった • まだ声が響いていない  ２・３年生合同合唱	15	◇響きのある声で歌おうとしているか。 ◇音楽的な高まりを感じているか。 【観察/自己評価カードの分析】

7　重点目標にせまるための指導の工夫

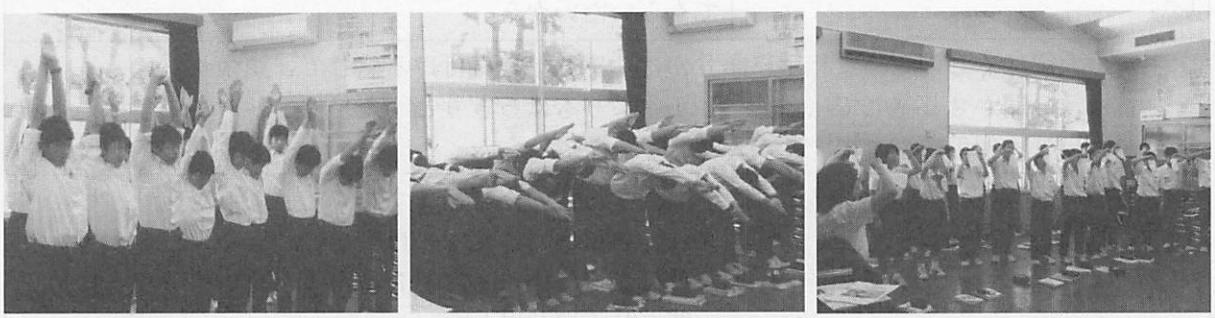
(1)　気付きや達成感から起こる感動の場の創造

ア　Liveによる演奏の音楽鑑賞から気付いたり，課題を発見し，解決したりする学習展開

２年生では「語り合おう」「ふるさと」の教師の範唱といったLive演奏を行った。音程やハーモニーを意識し歌うことで達成感を味わわせようとした。３年生では「花」における教師とコーラス部員の範唱，２・３年生合同授業における「fight」のLive演奏を行った。音程やハーモニーの指導も行いながら，楽曲にあった声の響きや，楽曲構成を意識した演奏ができるように指導にあたった。


教師とコーラス部員との範唱

イ　技能の向上を実感させるために，授業で使う教材と関連させたヴォイストレーニング


ヴォイストレーニングの様子

音楽科では教師の専門性を生かしたTTを継続して行っている。教材と関連させた内容を授業開始５分～10分くらい実施している。ヴォイストレーニングの時の身体や声の様子から，そのクラスの生徒の心の状態がすぐ把握できるため，状態によって息をゆっくり吐かせたり，背中の筋肉を緩めるストレッチをしたりするなど，臨機応変な対応を心がけている。また，身体を使って声を出すために，体幹をしっかりさせる発声練習，鼻腔を広げるブレストレーニング，鼻に声を響かせるためにティッシュペーパーを使う練習法など，いろいろな方法で工夫をしている。常

に身体のどの部分を意識するか声をかけて技能の定着を図っている。

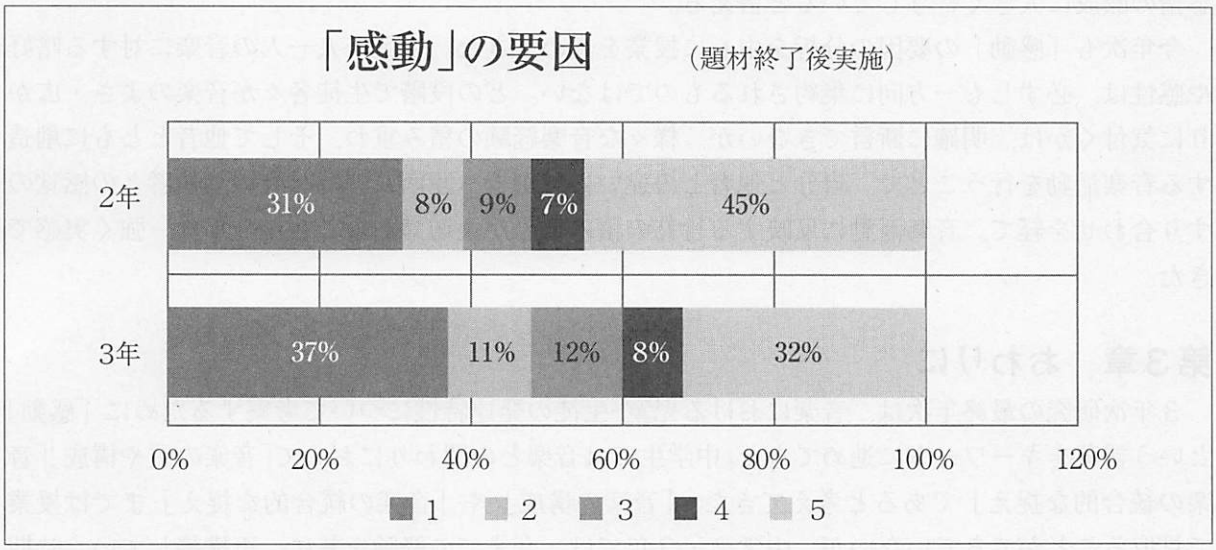
(2) 仲間との関わり〈ハーモニー〉から起こる感動の場の創造

２年生では，徐々に教師主導の音取りから，生徒が主体的に活動していくようにしている段階である。新しい曲をパートリーダー等に任せ，音取りを行ったり，生徒が歌いたい歌を取り上げ，自分たちで合わせたりしていく場を設定した。「語り合おう」「ふるさと」「fight（ファイト）」と，次第に難しくなるように教材の配列を工夫した。３年生では，「fight」において，表現の工夫をするために何度も登場する「がんばれ」の部分をどう歌うかについて，意見を出し合い，歌い方を統一していった。下の表はその意見の一部である。

誰に，どんな気持ちを伝える？	理　　由
東北大震災で被災されたから方に，復興へのエールを送りたい	
自分を励ます気持ち	「がんばれ」が何度も出てくるから。自分が今，疲れているから。
今の東北，今の日本，今の世界へ	今の自分に向けてそれぞれにがんばっている人にいろんな意味の「がんばれ」を伝えたい。
頑張っている人に「あきらめるな，頑張れ」という気持ちを伝えたい	自分も頑張っているから。
全ての人に人生を楽しめという思いを伝えたい	「いきてゆく」や「限りある日々に……」の歌詞から。
立ちはだかる壁を前にあきらめようとする人に（自分も含めて）「あきらめるな！がんばれ！」と呼びかけたい	「がんばれ」という言葉のニュアンスから，強く言い切る感じだから。
クラスの仲間に「がんばれ」と言いたい	頑張っていないわけではないけれど，いつまでも高い目標を目指して頑張ってほしかったから。このメンバーでいられるのも少しなのでみんなも僕もがんばり続けたい。
部活の後輩に「頑張れ」と伝えたい	大会があるので勝ってもらいたから，いい結果を出してもらいたいから。
• １番の歌詞はくじけそうな相手に語りかける感じ。勇気付ける感じで「頑張れ」 • ２番は言い聞かせる感じで（自分に）１番よりもはっきりとした目標 • 最後は自分＋相手に溢れ出す「がんばれ」	
• １番の「がんばれ」は他の人に励ます感じで • ２番は自分に • ３番は自分に言っている	• 歌詞から他の人を励ます感じだと思った。 • 「勝ち負けだって本当は大事なことなんだね」という部分が，辛いことにぶちあたった時の自分自身に言い聞かせる感じがした。 • 悩みなどもやもやがあったけど，とりあえず吹っ切れて晴れやかな気分がする。
誰かと相手と自分	伴奏が激しく動く所は，相手に。少し短調気味な所は相手と自分に。最後の方は，今までの自分に向けて「あきらめないで，限りある日々に花を咲かせて」と呼びかけているのだと思う。

8　考察

題材終了に，「４月からの授業の中でどんな発見や感動があったか」のアンケートを実施した。（自由記述）それらを分類すると次のようになった。



1　「技術の向上が実感できること」
2　「音楽のしくみや構造を理解してそのすばらしさに驚くこと」
3　「自分の思いを音楽で表現することができること」「音楽に感情移入できること」
4　「音楽の広がりや深さに満足して活動すること」
5　「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」

２年生においては，*5「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」* の要因が45％であった。特に記述が多かったのは３年生との合同授業のことであった。しかし，「３年生の声を聞いて，私もあんな声を出したい」「３年生の指導がすごく，卒業記念音楽会ではあんな風にやりたい」「大勢で歌うと気持ちがいい」というプラス面の感想だけでなく，「３年生との授業はいやだった」「３年生が怖かった」などのマイナス面の感想もあった。

３年生においては *1「技能の向上が実感できること」* が37％であり，「高い声が出るようになった」や「低い声が出た」，「声がまとまり，ハーモニーがきれいだった」「声が深くなってきた」といった記述が多く見られた。*5「音楽表現を仲間や自分たちの力でつくりあげていく喜びや仲間との共感」* については，「２年生の見本になるようがんばった」「私たちの歌声が少しでも参考になり，附中の伝統を受け継いでほしい」というプラス面の感想も見られたが，「クラスで歌う方が楽しい」「２年生に指導するのは緊張したし，疲れた」という２年生と同様にマイナス面の感想も見られた。

題材終了後，３年生は松山市連合音楽会に参加した。女声も男声も声の響きが深くなり，意欲もさらに向上した。３年生は１年生の時にはあまり声が出ず，また，反応も薄かったため，指導に困っていたところもあったが，３年生になってからの演奏の伸びと比例して，音楽に対して前向きな姿勢が授業で多く見受けられる。また，今年度は臨時コーラス部員も多く集まり，全国大会に参加した。指導の中で声の響きについて，教師が声を出し，深い響きになるように指導し続けたが，その場ではやってみようとするけれど，継続しなかった。しかし，全国大会参加を機に，特に男声の声が著しく変化した。同じ中学生の声を聞いて驚き，「自分もあんな声で歌いたい」という思いをもっていること，「他の中学生の声の聞いたことで，先生の指導していたことが結び付いた」ことで，コーラス部員の声が深くなってきた。さらに，そのことがクラスの仲間にも伝わってきている。体験することの大切さを改めて実感した。

全校生徒の前で全国大会前に演奏を披露したが，仲間からの賞賛の声もあり，自信につながったと感じた。「花」におけるコーラス部の範唱の後も，仲間から大きな拍手があり，歌った生徒はもちろんのこと，聴いていた生徒も嬉しそうにしており，互いを認め合う集団の雰囲気が自尊感情の醸成に大きく寄与していると言える。

今年次も「感動」の要因の分析を中心に授業を進めてきた。生徒一人一人の音楽に対する嗜好や感性は，必ずしも一方向に集約されるものではない。どの段階で生徒各々が音楽のよさ・広がりに気付くかは，明確に断言できないが，様々な音楽経験の積み重ね，そして他者とともに創造する音楽活動を行うことで，自分と他者との違いに気付き，互いに理解し合い，他者との感覚のすり合わせを経て，音楽活動に反映する行為の積み重ねが大切であることが今年次，強く実感できた。

第3章　おわりに

３年次研究の最終年次は，音楽における児童･生徒の発達特性について考察するために「感動」という言葉をキーワードに進めてきた。中学生では音楽との関わりにおいて「音楽の質や構成」「音楽の統合的な捉え」であると考えてきた。「音楽の構成」や「音楽の統合的な捉え」までは授業で見取ることができていないが，中学２・３年では，今までの経験を基に，再構築していく時期であることが分かってきた。私自身，授業でいつも同じことの繰り返しのような感を得ていたが，今年度の３年生の現状から，その繰り返しが，いつか生徒の中で結び付き，技能が定着し，よりすばらしい音楽を追求しようとすることにつながることが実感できた。反面，「音楽の構成」や「音楽の統合的な捉え」ができるようになるための指導の工夫をしていく必要があると反省している。